

教員活動報告（2007年1月～12月）

上好 昭孝（学長）

■ 著書

【共著】

上好 昭孝：ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療. p128-138, 七川歡次監修, リウマチ病セミナー XⅧ, 永井書店, 大阪, 2007年12月.

■ 論文

【総説】

上好 昭孝：股関節症に対する保存療法—股関節用装具—股関節用 S-splintを中心に—. Hip Joint2007, 33: 130-134.

【その他】

上好 昭孝：日常外来における疼痛の管理—リハビリテーションからみた—. 和歌山市医師会だより 2007, 496: 6-8.

■ 国内学会

【シンポジウム】

上好 昭孝：「地域リハ」による21世紀の関節リウマチ医療. 第51回日本リウマチ学会学術総会, 横浜市, 2007.4.26.

■ 講演会

日常外来における疼痛の管理・・・リハビリテーションからみて. 和歌山市医師会内科部会学術講演会, 和歌山市, 2007.9.15.

日常外来における骨粗鬆症への取組み. 和歌山県産婦人科位階学術講演会, 田辺市, 2007.10.27.

■ 社会活動

【講師】

関節リウマチ患者の障害の受容. 日本リウマチ友の会和歌山支部総会, 2007.6.17.

心とからだの健康を考える「骨粗鬆症による合併症を予防するために」—高齢化に向けて—. 和歌山市西保健センター, 2007.10.24.

■ 研究助成

【共同研究】骨密度と骨組織におけるカルシトニンの役割～カルシトニン欠損マウスを用いて～. 研究代表者 中村美砂, 共同研究者 上好昭孝, 小西正良, 亀田浩司, 大阪河崎リハビリテーション大学平成19年度共同研究費, 1,000,000円, 2007年4月-2008年3月.

<理学療法学専攻>

浅野 達雄

■ 論文

【原著】

藤野文崇, 鈴木順一, 小奈武陸, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄：医療系専門学校生における自己効力感と卒業試験結果の関係性. リハビリテーション教育研究 2007, 12: 122-124.

峰久京子, 小奈武陸, 藤野文崇, 鈴木順一, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄, 富樫誠二：医療系専門学校におけるPBL (Problem Based Learning : 問題基盤型学習) の試み. リハビリテーション教育

研究 2007, 12 : 198-205.

【報告】

浅野達雄：学生と共に学んだ健康科学SGL ―生活習慣病の原因は何かを学んで、予防対策を考えよう―.

大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 85-91.

■ 社会活動

【非常勤講師】

リハビリテーション看護. 河崎会看護専門学校看護第1学科3年生, 2007.4月.

リハビリテーション看護. 河崎会看護専門学校看護第2学科3年生, 2007.6月.

【講師】

頭の体操と上下肢のリズム体操. 河崎会介護老人保健施設希望が丘, 2007年1月-12月.

亀田 浩司

■ 研究助成

【共同研究】骨密度と骨組織におけるカルシトニンの役割～カルシトニン欠損マウスを用いて～. 研究代表者 中村美砂, 共同研究者 上好昭孝, 小西正良, 亀田浩司, 大阪河崎リハビリテーション大学平成19年度共同研究費, 1,000,000円, 2007年4月-2008年3月.

小恠 武陞

■ 論文

【原著】

小恠武陞, 鈴木順一, 藤野文崇：よりよい治療者・指導者を育てるためには―PNF講習会を通じて―. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 61-67.

小恠武陞, 峰久京子, 富樫誠二, 鈴木順一：評価実習不安に対する授業の工夫. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 131-133.

藤野文崇, 鈴木順一, 小恠武陞, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄：医療系専門学校生における自己効力感と卒業試験結果の関係性. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 122-124.

峰久京子, 小恠武陞, 藤野文崇, 鈴木順一, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄, 富樫誠二：医療系専門学校におけるPBL (Problem Based Learning : 問題基盤型学習) の試み. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 198-205.

【講座】

国末和也, 野村和樹, 小恠武陞, 上島健, 岸上雅彦, 高瀬敏幸, 山本和儀, 富樫誠二：「地域の子育て支援」―子どもの成長・発達を願って―. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 137-153.

■ 勉強会

小恠武陞, 小滝昌彦, 村上浩一：第1回cellar course講習会 (PNF四肢編). 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.5.27.

小恠武陞, 小滝昌彦, 村上浩一：第2回cellar course講習会 (PNF体幹編). 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.6.24.

小恠武陞, 藤野文崇, 海端俊秀, 北口慎一郎：第3回cellar course講習会 (PNFを用いたADLトレーニング). 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.9.30.

市川繁之, 小恠武陞：第1回cellar course研修会 (PNF information). 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.9.19.

小恠武陞, 藤野文崇, 海端俊秀, 小川成敏：卒後教育 cellar course 蔵塾. 笠松病院, 2007年4月～2008年3月 1回/月.

■ メディア

【取材協力】小奈武陸：@あっとテレわか 平坂組，テレビわかやま，2007.11.8.

■ 社会活動

【非常勤講師】

「情報処理」. 河崎会看護専門学校看護第1学科1年生，2007年9月-11月.

中高年のための筋トレとウォーキング法. 貝塚市立中央公民館，2007.6.24.

【講師】国際スリングエクササイズセラピー ベーシックコース，吉川病院，2007.3.25.

【学会運営】日本スリングエクササイズセラピー研究会 地区担当理事.

【座長】第19回大阪府理学療法学会大会，大阪電気通信大学四条畷キャンパス，2007.7.15.

【ボランティア活動】国際PNF協会主催アドバンスコース3・3B，2007.9.19-9.23.

【嘱託委員】社団法人 大阪府理学療法士会 資料調査部 部員，2007年4月より2年.

小西 正良

■ 論文

【原著】

小西正良：感情起伏と大脳辺縁系－感情日誌を用いて－. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 51-59.

■ 研究助成

【共同研究】骨密度と骨組織におけるカルシトニンの役割～カルシトニン欠損マウスを用いて～. 研究代表者 中村美砂，共同研究者 上好昭孝，小西正良，亀田浩司，大阪河崎リハビリテーション大学平成19年度共同研究費，1,000,000円，2007年4月-2008年3月.

坪田 裕司

■ 論文

【原著】

Kurachi M, Kawamoto Y, Tsubota Y, Chau BL, Dang VB, Dorji T, Yamamoto Y, Nyunt MM, Maeda Y, Chhum-Phith L, Namikawa T, Yamagata T : Phylogeography of wild musk shrew (*Suncus murinus*) populations in Asia based on blood protein/enzyme variation. *Biochemical Genetics* 2007, 45 (78) :543-563.

■ 国際学会

【ポスター】

Hatada, A., Okamura, Y., Owada-Makabe, K., Tsubota, Y., Kouda, K., Yamazaki, T., Nakamura, T., Waki, H., Yukawa, K., Maeda, M.: Direct in vivo Protein transduction into cardiomyocytes of rats. *Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical* 315 (2007) 1-160: P115, Kyoto, 2007.10.5-8, 5th ISAN 発表は10月6日.

Kouda, K., Owada-Makabe, K., Tsubota, Y., Hatada, A., M.E.R. Bhuiyan., Ueyama, T., Nakamura, T., Waki, H., Yukawa, K., Maeda, M.: Direct in vivo nNOS protein transduction into the nucleus tractus solitarius in rats. *Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical* 315 (2007) 1-160: P119, Kyoto, 2007.10.5-8, 発表は10月6日.

Kouda, K., Owada-Makabe, K., Tsubota, Y., Hatada, A., M.E.R. Bhuiyan., He Cui., Ueyama, T., Nakamura, T., Waki, H., Kohsaka, A., Yukawa, K., Tajima, F., Maeda, M.: Direct in vivo nNOS protein transduction into the nucleus tractus solitarius decreases arterial pressure in rats. *Satellite Symposium of the 5th Congress of the International Society, Wakayama, 2007.10.3, for Autonomic Neuroscience (ISAN 2007) Program: P39.*

Yamazaki, T., He Cui., Nakamura, T., Kouda, K., Hatada, A., M.E.R.Bhuiyan., Ono, M., Kakimoto, N., Yamamoto, S., Tsubota, Y., Kohsaka, A., Waki, H., Yukawa, K., Maeda, M. : Microinjection of urocortin into the uncus tractus solitarii decreases arterial blood pressure in rats. Satellite Symposium of the 5th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN 2007), Wakayama, 2007.10.3, Program: P62.

Yamazaki, T., He Cui., Nakamura, T., Kouda, K., Hatada, A., M.E.R.Bhuiyan., Waki, H., Tsubota, Y., Yukawa, K., Maeda, M.: Microinjection of urocortin into the rat uncus tractus solitarii decreases arterial blood pressure. *Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical* 315 (2007) 1-160: P112, Kyoto, 2007.10.5-8, 5th ISAN発表は10月7日.

■ 国内学会

【一般口演】

Chinatsu Tomaru, Kazunori Iijima, Kyoko Owada-Makabe, Yuji Tsubota: Detection and classification of epileptic seizure using continuous wavelet transform and artificial neural network. 日本神経科学会総会, 横浜, Sep 9-12, 2007.

Hatada, Atsutoshi; Owada-Makabe, Kyoko; Tsubota, Yuji; Cui, Ha; Kouda, Ken; Nakamura, Ken; Yukawa, Kazunori; Okamura, Yoshitaka; Maeda, Masanobu: Direct in vivo delivery of a biologically active protein into cardiomyocytes of rats - The development of the new device for protein therapy -. The Proceedings of the 84th Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Osaka, Japan, March 20-22, 2007, Osaka, Japan *The Journal of Physiological Sciences*, Vol. 57, p. S211, Supplement, 2007.

Iijima, Kazunori; Tsubota, Yuji; Owada-Makabe, Kyoko : Detection of epileptic discharges in the EEG by a hybrid system comprising continuous wavelet transformation and artificial neural network. The Proceedings of the 84th Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, 大阪, March 20-22, 2007, *The Journal of Physiological Sciences*, Vol. 57, p. S166, Supplement, 2007.

Yamazaki, Toshiya; Cui, Ha; Nakamura, Ken; Kouda, Ken; Hatada, Atsutoshi; Tsubota, Yuji; Yukawa, Kazunori; Maeda, Masanobu : Microinjection of urocortin into the rat nucleus tractus solitarii decreases arterial blood pressure. The Proceedings of the 84th Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Osaka, March 20-22, 2007, *The Journal of Physiological Sciences*, Vol. 57, p. S211, Supplement, 2007.

坪田裕司, 都丸千夏, 飯島一憲, 宮嶋正康, 大和田-真壁 恭子: 連続ウェーブレット変換と人工ニューラルネットワークを用いたてんかん発作脳波の特徴抽出によるWERラット発作頻度の解析. 第24回日本疾患モデル学会総会, つくば国際会議場, 2007.8.31-9.1.

坪田裕司, 都丸千夏, 飯島一憲, 宮嶋正康, 大和田-真壁恭子: Wavelet変換と人工ニューラルネットによる欠神発作自動判定システムを用いたWER系統における24時間発作推移の検討. 第96回関西実験動物研究会研究発表会, 京都市勧業館, 2007.12.14, 第96回関西実験動物研究会研究発表会講演要旨集, p12.

■ 社会活動

【非常勤講師】

第二生理学教室 主に研究指導, 和歌山県立医科大学 大学院生, 2007.4-2008.4.

運動生理学特別講義と演習. 関西総合リハビリテーション専門学校 専門学校生, 2007.9.18-19.

【学会運営】

日本生理学会 評議員.

関西実験動物研究会 評議員.

富樫 誠二

■ 著書

【共著】

富樫誠二：第12章 理学療法と心理的対応. p307-332, 奈良勲編著 理学療法概論 5版. 医歯薬出版, 東京, 2007年4月, 384頁.

■ 論文

【総説】

Nakamura Misa, Minehisa Kyoko, Togashi Seiji : Vitamin D receptor gene and exercise: influence on bone mineral density. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 43-49.

小俣武陸, 峰久京子, 富樫誠二, 鈴木順一：評価実習不安に対する授業の工夫. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 131-133.

富樫誠二, 戸梶亜紀彦：ヒューマンサービス職における感情労働研究概観—リハビリテーション専門職の感情労働研究の課題を見据えて—. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 33-41.

峰久京子, 小俣武陸, 藤野文崇, 鈴木順一, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄, 富樫誠二：医療系専門学校におけるPBL (Problem Based Learning : 問題基盤型学習) の試み. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 198-205.

【講座】

國末和也, 野村和樹, 小俣武陸, 上島健, 岸上雅彦, 高瀬敏幸, 山本和儀, 富樫誠二：「地域の子育て支援」—子どもの成長・発達を願って—. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 137-153.

■ 国際学会

【ポスター】

Kyoko Minehisa, Koichi Shinkoda, Isao Nara, Yoshihiro Matsunaga, Toru Endoh, Seiji Togashi : Spinal Motion Analysis of Adolescent Idiopathic Scoliosis. 15th International Congress of the world Confederation for Physical Therapy Vancouver Canada 2 - 6 June 2007.

■ 国内学会

【ポスター】

富樫誠二：ヒューマン・サービス職である理学療法士の感情労働と介在するコミュニケーション・スキルの役割について. 第30回日本プライマリ・ケア学会, 宮崎ワールドコンベンションセンターサミット, 2007.5.26-27.

■ 社会活動

【学会運営】 広島転倒予防研究会, 広島医師会館, 2007.7.1.

【座長】 第2回泉州ブロック症例研究大会, 岸和田浪切ホール, 2007.1.28.

【嘱託委員】 日本理学療法士協会法規検討委員会委員長, 2007年5月-2009年5月.

中村 美砂

■ 論文

【総説】

Nakamura Misa, Minehisa Kyoko, Togashi Seiji : Vitamin D receptor gene and exercise: influence on bone mineral density. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 43-49.

【原著】

Nakamura Misa, Han Bo, Nishishita Toshihide, Bai Yanhua, Kakudo Kennichi : Calcitonin targets extracellular signal-regulated kinase signaling pathway in human cancers. Journal of Molecular Endocrinology 2007,39 (6) : 375-384.

Zuo Hui, Nakamura Yasushi, Yasuoka Hironao, Zhang Ping, Nakamura Misa, Mori Ichiro, Miyauchi Akira, Kakudo Kennichi : Lack of association between BRAF V600E mutation and mitogen-activated protein kinase activation in papillary thyroid carcinoma. Pathology International 2007, 27 (1) : 12-20.

■ 国際学会

【ポスター】

Mori Ichiro, Higuchi Tomonori, Nakamura Misa, Wakasa Tomoko, Kakudo Kennichi : Macrophage-subendothelial extracellular matrix contact in the atherogenesis, elastin contact induces TNF- α upregulation. 21st European Congress of Pathology, Istanbul, Turkey, 2007.9.8-13.

■ 国内学会

【ポスター】

中村美砂, 覚道健一 : 妊娠・授乳期における乳腺におけるカルシトニン・カルシトニン受容体の発現. 日本病理学会, 大阪, 2007.3.13-15.

白艶花, 中村美砂, 森一郎, 若狭朋子, 宮内昭, 李亜琼, 刘志艶, 西上圭子, 覚道健一 : New isoforms of human periostin expressed in the thyroid gland. 日本甲状腺学会, 神戸, 2007.11.15-17.

【一般口演】

西上圭子, 森一郎, 若狭朋子, 中村美砂, 尾崎敬, 白艶花, 覚道健一 : 多発性内分泌腫瘍と腎細胞癌を伴ったvon Hippel-Lindau 病の剖検例. 日本内分泌病理学会, 札幌, 2007.10.20.

■ 社会活動

【非常勤講師】

病理学総論「内分泌異常」. 和歌山県立医科大学3年生, 2007.9.13.

人体のしくみと働き. 河崎会看護専門学校看護学科1年生, 2007年4月-8月.

病理学. 河崎会看護専門学校看護第1学科1年生, 2007年8-12月.

大学院生指導, 和歌山県立医科大学 病理学第二講座, 2007年1月-12月.

【講師】

第5回健康教室 ミニ講義「しみの発生と予防について」. 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.12.7.

【学会運営】

日本病理学会 評議委員.

日本内分泌学会 代議委員.

関西カルシウム懇話会 世話人.

論文査読 International Journal of Cancer, 2007.4.

論文査読 Cytotherapy, 2007.11.

■ 研究助成

【研究代表】中村美砂 : 骨密度と骨組織におけるカルシトニンの役割～カルシトニン欠損マウスを用いて～. 共同研究者 上好昭孝, 小西正良, 亀田浩司, 大阪河崎リハビリテーション大学平成19年度共同研究費, 1,000,000円, 2007年4月-2008年3月.

久利 彩子

■ 論文

【原著】

藤野文崇, 鈴木順一, 小柰武陸, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄 : 医療系専門学校生における自己効力感と卒業試験結果の関係性. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 122-124.

峰久京子, 小柰武陸, 藤野文崇, 鈴木順一, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄, 富樫誠二 : 医療系専門学校におけるPBL (Problem Based Learning : 問題基盤型学習) の試み. リハビリテーション教育

研究 2007, 12 : 198-205.

古井 透

■ 国際学会

【一般口演】

Furui Toru, Furui Masayo, Shiraishi Kiyoharu, Tsuchiya You, Collins Diane : Can a Gross Motor Function Classification System predict functional limitations among adults with cerebral palsy ? The World Confederation for Physical Therapy 15th International Congress, Vancouver, Canada, 2-6 June 2007.

【ポスター】

Furui Toru, Furui Masayo, Shiraishi Kiyoharu, Tsuchiya You, Collins Diane : Lifestyle and incidence of secondary conditions among community living individuals with cerebral palsy. 19th Annual Meeting of the European Academy of Childhood Disability (EACD), Groningen, The Netherlands, 14-16 June 2007.

【招待講演】

Furui Masayo, Furui Toru, Furui Tae, Terada Junnichi : Cerebral palsied activism in Japan, The CP GROU.ORG 'Finding our power Claiming our place' 2007 annual conference for adults with cerebral palsy. Arlington, Virginia, United States of America, 19 to 22 October 2007.

Furui Toru, Furui Masayo; Shiraishi Kiyoharu, Kishimoto Makoto : The impact of mobility transition and developing functional limitation among older adults with cerebral palsy (CP).The 1st Conference on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society of Korea 2007,Tongmyong University, Busan, Korea, 26 October 2007.

■ 社会活動

【非常勤講師】リハビリテーション論. 花園大学社会福祉学部2年生, 2007年4月-9月.

【講師】アメリカの成人脳性麻痺者の事情. 二次障害検討会 障害者の健康と二次障害を考える, 大阪市毎日インテシオビル, 2007.9.9.

【学会運営】論文査読 Assistive Technology, 2007.1.

峰久 京子

■ 論文

【総説】

Nakamura Misa, Minehisa Kyoko, Togashi Seiji : Vitamin D receptor gene and exercise: influence on bone mineral density. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 43-49.

【原著】

小俣武隆, 峰久京子, 富樫誠二, 鈴木順一 : 評価実習不安に対する授業の工夫. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 131-133.

【報告】

峰久京子, 小俣武隆, 藤野文崇, 鈴木順一, 岸本眞, 久利彩子, 藤平保茂, 浅野達雄, 富樫誠二 : 医療専門学校におけるPBL (Problem-Based Learning: 問題基盤型学習) の試み. リハビリテーション教育研究 2007, 12 : 198-205.

■ 国際学会

【ポスター】

Kyoko Minehisa, Koichi Shinkoda, Isao Nara, Yoshihiro Matsunaga, Toru Endoh, Seiji Togashi : Spinal Motion Analysis of Adolescent Idiopathic Scoliosis. 15th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy Vancouver Canada 2-6 June 2007.

■ 講演会

発表の仕方. 社団法人 大阪府理学療法士会泉州ブロック 定例会, 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.6.28.

■ 社会活動

【非常勤講師】

学習グループ連絡会共催講座 中高年の健康づくり講座「中高年が運動するときの注意点」, 貝塚市立中央公民館, 2007年6月.

社会福祉援助技術演習Ⅱ「実習場面における身体的機能」, 大阪体育大学健康福祉学部 社会福祉援助技術実習履修者, 2007.6.26.

【公開講座主催】

社団法人 大阪府理学療法士会泉州ブロック主催 第1回市民講座 運営委員, 泉の森ホール, 2007.2.

講師「ウォーキングについて」, 健康講座の講演と実技, 本学体育館, 2007.5.30.

社団法人 大阪理学療法士協会泉州ブロック特別講演会の運営, 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.11.25.

【座長】

第42回日本理学療法学会大会一般ポスター演題, 新潟, 2007年5月.

【学会運営】

第2回泉州ブロック症例研究大会運営委員, 2007年1月28日.

社団法人 大阪府理学療法士協会 第20回大阪府理学療法学会大会運営局長, 2007年8月-12月.

介護保険認定審査委員, 貝塚市介護認定審査会, 貝塚市民福祉センター, 2007年4月-2年.

日本生活支援工学会 評議員, 2007年1月-12月.

社団法人 大阪府理学療法士会泉州ブロック運営委員 学術副部長, 大阪府泉州地区理学療法士, 2007年1月-12月.

社団法人 大阪府理学療法士協会生涯学習部員, 2007年7月-12月.

社団法人 日本理学療法士協会法規検討委員会部員, 2007年7月-12月.

社団法人 日本理学療法士協会雑誌『理学療法学』編集協力, 2007年7月-12月.

第43回日本理学療法学会大会一般演題 査読委員, 2007年12月.

【ボランティア活動】

知的障害者身体障害者通所授産施設における行事手伝い, 自立センターどんまい, 2007.4.28, 8.11.

世界陸上2007大阪大会, 関西国際空港にて案内・送迎の連絡業務, 2007年8月-9月.

知的障害者身体障害者通所授産施設における行事手伝い, 貝塚市中央公民館, 2007.5.27.

山本 和儀

■ 論文

【講座】

國末和也, 野村和樹, 小太武陸, 上島健, 岸上雅彦, 高瀬敏幸, 山本和儀, 富樫誠二:「地域の子育て支援」—子どもの成長・発達を願って—. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 137-153.

【その他】

山本和儀: 命の尊さ. 厚生福祉 2007, 5465: 1.

■ 講演・勉強会

地域リハビリテーション. 長崎地域リハビリテーション塾研修会, 長崎大学医学部保健学科, 2007.6.2.

「維持期リハビリテーション」-尾道市御調町における地域リハビリテーションの実践-. 6回テクニカルレクチャー, 鳥根県松江市, 2007.6.30.

パネルディスカッション—これからの老健に求められるもの—。全国老人保健施設協会第2回中堅職員研修会，国立京都国際会館，2007.7.26.

グループワーク。全国老人保健施設協会第2回中堅職員研修会，国立京都国際会館，2007.7.27.

高齢者や障害児者の自立を支える専門職に必要なこと。H19地域リハビリテーション推進事業研修会，静岡県焼津市，2007.10.12.

ノーマライゼーションの街づくり。H19地域リハビリテーション推進事業研修会，鳥根県松江市，2007.10.20.

■ メディア

【記事】

山本和儀，浅野史郎：対談—当たり前に暮らせるまちづくりを目指して。地域リハビリテーション2007，2（5）：388-392.

山本和儀，河合秀治，大島一博，森山雅志：座談会 リハビリテーション課の誕生から崩壊まで。介護保険情報 2007，8（3）30-37.

■ 社会活動

【講師】

OT概論。小倉リハビリテーション学院，2007.7.14.

地域リハビリテーション—その基本理念は「住み慣れたところで安心して生き続ける」こと—。東京中野ZEROホール，2007.3.28.

地域リハビリテーション。下関リハビリテーション学院，2007.7.13.

■ その他

【コーディネーター】リハビリテーション医療のグランドデザイン。松江市立病院，2007.10.19.

<作業療法学専攻>

上島 健

■ 論文

【原著】

上島健，岸上雅彦，倉澤茂樹，津田勇人，長辻永喜：臨床評価実習における作業療法学科学生健康管理について—実習前後の質問紙を通して—。リハビリテーション教育研究 2007，12：101-103.

岸上雅彦，津田勇人，上島健，長辻永喜，中裕俊介：医療専門学校における作業療法学生の進級に伴う不安要因の検討。リハビリテーション教育研究 2007，12：128-130.

【報告】

上島健，津田勇人，安藤啓司：デイケア利用者の「ぬり絵」作品と興味傾向および身体機能特性について。財団法人 フランスベッドメディカルホームケア研究助成財団 第17回研究助成・事業報告書 2007，17：86-106.

津田勇人，岸上雅彦，上島健，長辻永喜，佐竹勝：作業療法学生が抱える不安について。大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007，1：107-121.

【講座】

國末和也，野村和樹，小柰武陸，上島健，岸上雅彦，高瀬敏幸，山本和儀，富樫誠二：公開講座「地域の子育て支援」—子どもの成長・発達を願って—。大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007，1：137-153.

■ 国内学会

【一般口演】

上島健, 津田勇人, 嶋野広一: 本学関連施設におけるプレ実習の実態と課題について—睡眠時間の観点から—。第20回教育研究大会, 東京, 2007.8.24.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島健: 4年制大学作業療法学専攻新入生の不安とガイダンスの紹介。第20回教育研究大会, 東京, 2007.8.24.

【ポスター】

上島健, 野崎健, 岸上雅彦, 津田勇人, 佐竹勝: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過(第2報)—Lewy小体型認知症を疑う症例におけるSTEF,FIMの経過—。第41回日本作業療法士学会, 鹿児島, 2007.6.22-24.

野崎健, 上島健, 津田勇人, 岸上雅彦, 長辻永喜: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過—Lewy小体型認知症の疑いと3年間の治療経過—。第41回日本作業療法士学会, 鹿児島, 2007.6.22-24.

■ 社会活動

【非常勤講師】介護福祉士受験対策研修, 尼崎市社協会館, 2007.10.7.

【公開講座主催】健康教室「ヘルスケア 大阪河崎リハビリテーション大学」, 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.4.18-2008.1.18.

【嘱託委員】

大阪市障害程度区分認定審査会 委員, 大阪市港区役所, 2006.4.1-2009.3.31.

社団法人 大阪府作業療法士会 広報部委員, 社団法人 大阪府作業療法士会事務所, 2007.4.1-2008年3月時総会まで.

社団法人 大阪府作業療法士会 学術部員, 社団法人 大阪府作業療法士会事務所, 2007.4.1-2008.3.31.

■ 研究助成

【共同研究】介護保険施設における車椅子整備状況と作業療法士の役割. 研究代表者 松下太 共同研究者 上島健, 松尾康宏, 名倉和幸, 得野奈緒子, 中島明子, 谷口孝紀, 森奈保子, 平成19年度(社)大阪府作業療法士会学術部研究会, 100,000円, 2007.4.1-2008.3.31.

岸上 雅彦

■ 論文

【原著】

上島 健, 岸上雅彦, 倉澤茂樹, 津田勇人, 長辻永喜: 臨床評価実習における作業療学科学生の健康管理について. リハビリテーション教育研究 2007, 12: 101-103.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島 健, 長辻永喜, 中松俊介: 医療専門学校における作業療学科学生の進級に伴う不安要因の検討. リハビリテーション教育研究 2007, 12: 128-130.

【報告】

津田勇人, 岸上雅彦, 上島健, 長辻永喜, 佐竹 勝: 作業療法学生が抱える不安について. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 107-121.

【講座】

國末和也, 野村和樹, 小俣武陸, 上島健, 岸上雅彦, 高瀬敏幸, 山本和儀, 富樫誠二: 「地域の子育て支援」—子どもの成長・発達を願って—. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 137-153.

■ 国内学会

【一般口演】

岸上雅彦: 本学関連施設におけるプレ実習の実態と課題について—睡眠時間の観点から—. 第20回教育研究大会, 東京, 2007.8.24.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島健: 4年制大学作業療法学専攻新入生の不安と当専攻で行っているガイダンス紹介. 第20回教育研究大会, 東京, 2007.8.23-25.

【ポスター】

上島健, 野崎健, 岸上雅彦, 津田勇人, 佐竹勝: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過 (第2報).

第41回日本作業療法学会, 鹿児島市, 2007.6.22-24.

野崎健, 上島健, 津田勇人, 岸上雅彦, 長辻永喜: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過. 第41回

日本作業療法学会, 鹿児島市, 2007.6.22-24.

■ 社会活動

【公開講座主催】

健康教室「ヘルスケア 大阪河崎リハビリテーション大学」, 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.9.19-12.14.

衣川 満哉

■ 論文

【講座】衣川満哉: 認知症に対するアプローチ—作業療法の考え方—. 大阪作業療法ジャーナル 2007, 20 (2): 21-25.

■ 国内学会

【シンポジウム】衣川満哉: 大阪府作業療法士会創世記を支えた先輩からのメッセージ. 第23回大阪府作業療法学会, 関西福祉科学大学, 2007.9.30.

■ 社会活動

【学会運営】論文査読委員, 日本作業療法士協会第42回学会の論文査読.

【嘱託委員】貝塚市介護認定審査委員, 貝塚市役所.

佐竹 勝

■ 著書

【訳書】

佐竹 勝: 第7章 意味の規定: 自然の挑戦. p83-95. ゲイル フィドラー, ベス ヴェルデ, スーザン ファイン著 フィドラーのアクティビティ論. 医学書院, 東京, 2007年6月, 169頁.

■ 論文

【報告】

佐竹勝, 長辻永喜: カナダ園芸療法研修記. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 93-106.

津田勇人, 岸上雅彦, 上島健, 長辻永喜, 佐竹勝: 作業療法学生が抱える不安について. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 107-121.

■ 国内学会

【ポスター】

上島健, 野崎健, 岸上雅彦, 津田勇人, 佐竹勝: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過 (第2報)

—Lewy小体型認知症を疑う症例におけるSTEF,FIMの経過—. 第41回日本作業療法学会, 鹿児島,

2007.6.22-24.

■ 講演会

精神科作業療法の歴史と現状. 日本作業療法士協会 現職者講習会, 藍野大学, 2007.12.15.

■ 社会活動

【非常勤講師】

精神科作業療法, 日本医療福祉専門学校作業療法学科2年生, 2007年4月-12月.

基礎作業学, 日本医療福祉専門学校作業療法学科2年生, 2007年4月-12月.

【学会運営】

日本作業療法士協会 WFOT認定等教育水準審査委員長.

日本作業療法士協会 演題審査委員長.

【座長】第41回日本作業療法学会, 鹿児島市, 2007.6.22-24.

嶋野 広一

■ 論文

【原著】

嶋野広一：介護老人保健施設における「回想法」の試み, 大阪作業療法ジャーナル 2007, 20(2)：42-44.

■ 国内学会

【一般口演】

上島健, 津田勇人, 嶋野広一, 岸上雅彦, 水野貴子, 倉澤茂樹：本学関連施設におけるプレ実習の実態と課題について—睡眠時間の観点から—. 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会 第20回教育研究大会・教員研修会, ホテル東京ガーデンパレス, 2007.8.23-25.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島健, 長辻永喜, 小奈武陸, 嶋野広一, 倉澤茂樹, 水野貴子：4年制大学作業療法学専攻新入生の不安とガイダンスの紹介. 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会 第20回教育研究大会・教員研修会, ホテル東京ガーデンパレス, 2007.8.23-25.

■ 社会活動

【公開講座主催】健康教室「ヘルスケア大阪河崎リハビリテーション大学」, 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.4.18から毎週水曜日.

津田 勇人

■ 論文

【原著】

上島 健, 岸上雅彦, 倉澤茂樹, 津田勇人, 長辻永喜：臨床評価実習における作業療法学科学生の健康管理について. リハビリテーション教育研究 2007, 12：101-103.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島 健, 長辻永喜, 中松俊介：医療専門学校における作業療法学科学生の進級に伴う不安要因の検討. リハビリテーション教育研究 2007, 12：128-130.

【報告】

上島健, 津田勇人, 安藤啓司：デイケア利用者の「ぬり絵」作品と興味傾向および身体機能特性について. 財団法人 フランスベッドメディカルホームケア研究助成財団 第17回研究助成・事業報告書 2007, 17：86-106.

津田勇人, 岸上雅彦, 上島健, 長辻永喜, 佐竹 勝：作業療法学生が抱える不安について. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1：107-121.

■ 国内学会

【一般口演】

青木朋子, 津田勇人, 福岡義之, 堀田典生, 木下博：タッピング運動からみた指の運動機能の加齢変化. 第57回日本生理人類学会, 九州大学, 2007.10.20-21.

上島健, 津田勇人, 嶋野広一：本学関連施設におけるプレ実習の実態と課題について—睡眠時間の観点から—. 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会 第20回教育研究大会, 東京, 2007.8.23-25.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島健：4年生大学作業療法学専攻新入生の不安とガイダンスの紹介. 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会 第20回教育研究大会, 東京, 2007.8.23-25.

【ポスター】

Kinoshita Hiroshi, Tsuda Hayato, Aoki Tomoko, Oku Naohiko, Hatazawa Jyun, Kimura Yasuyuki, Kajimoto Katsufumi：Functional brain areas involved in the use of chopsticks: A PET study, THE 30th

ANNUAL MEETING OF THE JAPAN NEUROSCIENCE SOCIETY, YOKOHAMA, JAPAN, Sep 10-12, 2007.

上島健, 野崎健, 岸上雅彦, 津田勇人, 佐竹勝: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過 (第2報) —Lewy小体型認知症を疑う症例におけるSTEF, FIMの経過—. 第41回日本作業療法学会, 鹿児島, 2007.6.22-24.

河野正志, 富永孝紀, 市村幸盛, 浦千沙江, 津田勇人: 失行症を呈した症例の身体意識に関する検討 —修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた質的研究—. 第41回日本作業療法学会, 鹿児島, 2007.6.22-24.

野崎健, 上島健, 津田勇人, 岸上雅彦, 長辻永喜: Parkinson病に認知症を伴う1症例の長期経過—Lewy小体型認知症の疑いと3年間の治療経過—. 第41回日本作業療法学会, 鹿児島, 2007.6.22-24.

湯川喜裕, 河野正志, 平井久美, 前田ゆかり, 津田 勇人: 片麻痺患者の非麻痺側リーチにおける身体イメージについての検討. 第41回日本作業療法学会, 鹿児島, 2007.6.22-24.

■ 社会活動

【非常勤講師】

身体障害作業療法治療学. 箕面学園保育福祉専門学校作業療法学科2年生, 2007年度.

【嘱託委員】

日本作業療法士協会 WFOT認定等教育水準審査委員, 東京 他, 2005年4月-2007年3月
貝塚市介護認定審査会委員, 貝塚市役所, 2007年4月-2009年3月.

長辻 永喜

■ 論文

【原著】

上島 健, 岸上雅彦, 倉澤茂樹, 津田勇人, 長辻永喜: 臨床評価実習における作業療法学科学生の健康管理について. リハビリテーション教育研究 2007, 12: 101-103.

岸上雅彦, 津田勇人, 上島 健, 長辻永喜, 中松俊介: 医療専門学校における作業療法学科学生の進級に伴う不安要因の検討. リハビリテーション教育研究 2007, 12: 128-130.

【報告】

佐竹勝, 長辻永喜: カナダ園芸療法研修記. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 93-106.

津田勇人, 岸上雅彦, 上島健, 長辻永喜, 佐竹 勝: 作業療法学生が抱える不安について. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1: 107-121.

■ 社会活動

【公開講座主催】

大阪府作業療法士会 新人教育プログラム「日本作業療法士協会と大阪府作業療法士会の歴史と組織」, 大阪府立大学, 2007.5.27.

大阪府作業療法士会 新人教育プログラム「日本作業療法士協会と大阪府作業療法士会の歴史と組織」, 関西医療技術専門学校, 2007.11.25.

【学会運営】

大阪府作業療法士会 会長, 2006年4月-2008年3月.

堺市 障害程度区分認定審査委員, 堺市役所, 2007年4月-2009年3月.

大阪府国民健康保険団体連合会 介護給付費審査委員, 2007年4月-2009年3月.

大阪府医師会「医療モニター」, 2007年9月-2009年8月.

大阪府高齢者介護予防・地域リハビリテーション推進委員会 委員, 2007年9月-2009年8月.

阪神内部障害リハビリテーション研究会 世話人.

日本作業療法学会 演題審査委員, 2007年10月-2010年9月.

森下 孝夫

■ 社会活動

【非常勤講師】作業療法概論, 発達障害治療学実習. 学校法人箕面学園福祉保育専門学校, 2007年度.

【学会運営】日本作業療法学会 演題審査委員, 2007年10月-2010年9月.

<言語聴覚学専攻>

雨宮 徹

■ 勉強会

恋と愛について. 大阪府立大学文科系OB・OG研究会, 茨木市立東コミュニティセンター, 2007.8.30.

フランクルの意味の思想の、老いへの適用可能性について. フランクル研究会, 大阪ガーデンパレス, 2007.7.15.

フランクル研究会, 大阪ガーデンパレス, 2007.2.18, 5.13, 9.16.

■ 社会活動

【非常勤講師】

哲学. 河崎会看護専門学校看護第2学科1年生, 2007年4月-2008年3月.

倫理学概論I、II. 近畿大学, 2007年4月-2008年3月.

倫理学概論I、II. 近畿大学4学年, 2007年4月-9月.

「それでも人生にイエスと言う V.E.フランクルの思想と生きかた」. 平成19年度地域福祉セミナー「関前塾」, 2007.7.28.

【学会運営】フランクル研究会 事務局担当, 大阪ガーデンパレス.

國末 和也

■ 論文

【原著】

Kunisue Kazuya, Fukushima Kunihiro, Kawasaki Akihiro, Maeda Yukihide, Nagayasu Rie, Kataoka Yuko, Shin Kariya, Fukutomi Yasuyo, Takami Haruhisa, Nishizaki Kazunori : Comprehension of abstract words among hearing impaired children. International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 2007, 71 (9) : 1671-1679.

【講座】

國末和也, 野村和樹, 小森武陸, 上島健, 岸上雅彦, 高瀬敏幸, 山本和儀, 富樫誠二: 「地域の子育て支援」—子どもの成長・発達を願って—. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 137-153.

■ 国内学会

【ポスター】

國末和也: S-P表分析による難聴児の抽象語彙理解傾向. 日本特殊教育学会, 兵庫教育大学, 2007.9.22-24.

■ 講演会

國末和也: 人工内耳のリハビリ. 中国教育オーディオロジー研究会, 広島県立広島南特別支援学校, 2007.8.9, 8.10.

■ 社会活動

【非常勤講師】

親と教師がどう連携すればよいか. 阪南市もみの木会, 阪南市ホケンセンター, 2007.2.14.

講座：発達障害「グレーゾーン」ってわかる？貝塚市立中央公民館 貝塚ファミリー劇場，2007.11.30.
聴覚・補聴学習会，大阪河崎リハビリテーション大学，1/30 第1回「デジタル補聴器の理解とフィッティング」4/26 第2回「聴覚補償とフィッティング」6/29 第3回「聴覚障害と児童理解について」8/24 第4回「聴力検査、補聴器の最新情報」10/25 第5回「オープンフィッティング、発音学習①」2/20 第6回「FM補聴システム、発音学習②」.

【公開講座主催】

地域の子育て支援—いっしょにあそぼう—. 大阪河崎リハビリテーション大学，2007.7.18, 8.22, 12.13.

【嘱託委員】

高等学校における発達障害支援モデル事業（文部科学省）校内研究会委員，大阪府立佐野工科高等学校，2007年度から2年間.

日本語聴覚士協会 職能部 部員（学校教育），2007年度より2年.

■ 研究助成

【共同研究】聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究. 研究代表者 福島 邦博，感覚器障害戦略研究（厚生労働省）平成19年度より5年間.

鈴木 英鷹

■ 著書

【単著】精神保健学 第6版，清風堂書店，大阪，2007年4月，338頁.

■ 論文

【原著】

鈴木英鷹，本多義治，本多秀治，野村和樹：江戸時代における精神神経疾患の位置づけ. 精神医学史研究 2007, 11 (2) :108-114.

鈴木英鷹他：大学生の食生活と精神保健. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 69-74.

■ 国内学会

【一般口演】

鈴木英鷹，本多義治，本多秀治：天平時代の医療（精神医学の萌芽）. 日本精神神経学会 第103回大会，高知，2007.5.17-19.

鈴木英鷹，本多義治，本多秀治：天平時代の精神医学（藤原宮子の憂鬱）. 第11回精神医学史学会，東京，2007.10.27-28.

■ その他 藤田保健衛生大学医学部客員教授.

高瀬 敏幸

■ 著書

【共著】

高瀬敏幸：第2章Ⅵ 発声・発語の障害. p88-91, 第3章Ⅴ 発声・発語器官. p117-123, 第4章Ⅲ 発声・発語意欲を高める, p170-180. 笠井新一郎編著，言語聴覚療法シリーズ12 改訂 言語発達障害Ⅲ，建帛社，東京，2007年8月，222頁.

高瀬敏幸：第3章 障害の理解（2）言語・聴覚障害 p118-123. 介護職員基礎研修テキスト 第3巻 医学関連領域の基礎知識，財団法人 長寿社会開発センター，東京，2007年2月 222頁.

■ 論文

【講座】

國末和也，野村和樹，小峯武陸，上島健，岸上雅彦，高瀬敏幸，山本和儀，富樫誠二：「地域の子育て支援—子どもの成長・発達を願って—」. 大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007, 1 : 137-153.

■ 国内学会

【一般口演】

高瀬敏幸：「ある障害児保育の子どもの療育を通して倫理問題を考える」，日本言語聴覚学会，浜松市，2007.6.2.

■ 講演会

「21世紀を生きる次の世代のSTに伝えたいこと」大阪市立大学 医学部附属病院，2007.6.10.

■ 社会活動

【非常勤講師】

肢体不自由教育，武庫川女子大学文学部 教育学科1年生，2007年9月－2008年2月。

言語聴覚士の指導・助言，寝屋川市立あかつき園ひばり園，2007年1月－12月（月1回）。

【公開講座主催】

地域の子育て支援—いっしょにあそぼう—。大阪河崎リハビリテーション大学，2007.7.18, 8.22, 12.13.

【学会運営】

大阪府言語聴覚士会会長。

社団法人大阪府作業療法士会理事。

日本言語聴覚士協会評議委員。

近畿言語指導研究会会長。

【嘱託委員】

大阪府地域リハビリテーション推進委員会委員。

日本言語聴覚士協会・都道府県士会検討ワーキンググループ委員。

【その他】

紙芝居、手遊びの実演，貝塚市子ども野外広場，2007.4.30.

言語訓練を実施，田中北梅田クリニック，2007年1月－12月（月2回）。

高橋 泰子

■ 著書

【共著】高橋泰子：5章 言語障害の心理。p50-66. 杉村省吾編 障害援助の臨床心理。建帛社，東京，2007年9月，220頁。

■ 論文

【その他】

高橋泰子：「健常児の言語獲得の過程を理解する—文字言語の獲得過程を理解する」のコース開発，文部科学省委託事業「eラーニング教材開発および遠隔教育のプログラム」成果報告書304-391pp.

■ 社会活動

【非常勤講師】

発達障害学特論，和歌山大学教育学部特殊教育特別専攻科，2007年4月－2008年3月。

保育内容言葉，和歌山信愛短期大学保育科，2007年9月－2008年3月。

WISC-Ⅲから見えるもの。豊能町立東ときわ台小学校教員研修，豊能町東ときわ台小学校，2007.12.5.

【学会運営】

日本音声言語医学会 音声言語医学会サテライトセミナー，カトリン・ノイマン医師（ゲーテ大学音声小児聴覚クリニック・ユトレヒト大学），「吃音における脳の関連要因と可塑性—基礎と治療効果—」。2007.10.28.

【嘱託委員】

巡回指導員（言語聴覚士），小・中学校における障害児への言語指導および教員への指導，豊能町教育委員

会より委嘱，2007年4月～2008年3月。
就学前幼児の言語指導，大阪府豊能町子育て支援センターおよび同町内幼稚園・保育所。
要支援乳幼児連絡調整会議，子育て健康福祉課，教育委員会指導課，豊能町要保護児童対策地域協議会，
2007.12.26.

【その他】

ID手法を用いたリハビリテーションのeラーニング教材開発および遠隔教育のプログラム開発．文部科学省委託事業，成果報告発表会，2007.2.24.

CRI手法を用いた仮名文字習得のためのeラーニングコンテンツ開発，2007.3.1.

ことばを育むために，保護者の意識調査と保育実践の指導，豊能町人権教育研究会2007年9月～2008年1月。

■ 研究助成

【共同研究】ID手法を用いたリハビリテーションのeラーニング教材開発および遠隔教育のプログラム開発．研究代表者 西村敦，共同研究者 松崎英明，小野啓郎，木村孝，青山克美，高橋泰子，君島浩，原田典昭，中植雅彦，浦山昌志，栗原良太，大戸寛，文部科学省委託専修学校教育重点支援プラン 20,000,000円，2006年7月～2007年3月。

■ その他

インストラクショナルデザイナー養成 C R I Eラーニングコンテンツ開発研修修了認定証取得。

野村 和樹

■ 論文

【原著】

野村和樹，中川智子，平尾竜一：児童虐待に関するグランドデザイン．大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007，1：75-83.

鈴木英鷹，本多義治，本多秀治，野村和樹：江戸時代における精神神経疾患の位置づけ．精神医学史研究 2007，11（2）108-114.

【講座】

國末和也，野村和樹，小俣武陸，上島健，岸上雅彦，高瀬敏幸，山本和儀，富樫誠二：「地域の子育て支援」—子どもの成長・発達を願って—．大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007，1：137-153.

■ 社会活動

【非常勤講師】

児童福祉論．大阪体育大学短期大学部 2年生，2007年4月～2008年3月。

社会福祉援助技術演習Ⅰ．大阪体育大学健康福祉学部 2回生，2007年4月～2008年3月。

社会福祉援助技術演習Ⅱ．大阪体育大学健康福祉学部 3回生，2007年4月～2008年3月。

【公開講座主催】

地域の子育て支援—いっしょにあそぼう—．大阪河崎リハビリテーション大学，2007.7.18，8.22，12.13.

三輪 レイ子

■ 論文

【報告】三輪レイ子，河崎建人：盲ろう障害者の社会参加を支援する．大阪河崎リハビリテーション大学紀要 2007，1：123-136.

矢守 麻奈

■ 国内学会

【一般口演】

伊藤亜希子, 井上典子, 矢守麻奈, 白川武志, 河崎建人: 発症5年後に開始した集中的言語聴覚療法の有効性. 第8回日本言語聴覚学会, 浜松市, 2007.6.2-3.

井上典子, 矢守麻奈, 伊藤亜希子, 金澤英二, 河崎建人, 塩谷由美子, 浅井 悌: 病院・職種間の連携が有効であった精神科症例に対する摂食・嚥下リハ. 第8回日本言語聴覚学会, 浜松市, 2007.6.2-3.

田峰謙一, 堀 一浩, 小野高裕, 海野哲朗, 阪上 穰, 近藤重悟, 濱中 里, 野首孝嗣, 矢守麻奈: 頸部前屈および回旋が嚥下時舌圧に及ぼす影響. 平成18年度(社)日本補綴歯科学会関西支部学術大会, 奈良県歯科医師会館, 2007.1.28.

吉村貴子, 矢守麻奈, 板倉登志子, 前島伸一郎, 関口恵利, 板倉徹: パーキンソン病における言語流暢性について～前頭側頭型認知症との比較第31回日本高次脳機能障害学会, 和歌山, 2007.11.22-23.

【ポスター】

齋藤 務, 西野 仁, 三木仁美, 山岡恵梨子, 矢守麻奈, 福田寛二: 当院NSTにおける嚥下リハビリテーションの現状. 第13回摂食・嚥下リハビリテーション学会, さいたま市, 2007.9.14-15.

西野 仁, 齋藤 務, 福田寛二, 三木仁美, 今本治彦, 彭 英峰, 矢守麻奈: 反回神経麻痺—気管カニューレを装着した患者への嚥下リハビリテーションの検討. 第13回摂食・嚥下リハビリテーション学会, さいたま市, 2007.9.14-15.

■ 講演・勉強会

摂食・嚥下リハビリテーションの効果的な進め方. 日総研セミナー, 日総研セミナー, 名古屋市 国際会議場, 2007.3.10.

摂食・嚥下リハビリテーションにおけるPEG～言語聴覚士の立場から～. PEG栄養セミナー, 豊中市, 2007.5.28.

摂食・嚥下機能と食物形態. おいしく安全に食べる, 第7回口のリハビリテーション研究会総会, 高知市, 2007.6.17.

摂食・嚥下リハビリテーションの効果的な進め方. 日総研セミナー, 名古屋市 2007.7.28.

失語症患者とのコミュニケーションのとり方. 和歌山県作業療法士会学術部主催 平成19年度紀北ブロック研修会, 和歌山市, 2007.8.19.

嚥下造影に基いた嚥下訓練の立案. 第23回大分嚥下音声言語研究会(日本医師会生涯教育適合学術集会), 大分県医師会館, 2007.10.7.

摂食・嚥下リハビリテーションの効果的な進め方. 日総研セミナー, 札幌市, 2007.10.20.

摂食嚥下リハビリテーションにおける各部門の役割と連携. 徳丸リハビリテーション病院 職員研修会, 東京都 徳丸リハビリテーション病院, 2007.11.10.

確認: 基礎的嚥下訓練(間接訓練)—手技と適応—. 第11回関東嚥下訓練技術者講習会, 東京大学医学部教育研究棟, 2007.11.11.

安全な摂食—見守りと介助のポイント—. 水間病院 職員研修会, 水間病院, 2007.11.15.

■ 社会活動

【非常勤講師】

摂食指導の具体的方法についての指導・助言. 大阪府立箕面養護学校 教員向け事例研修会, 2007.1.17.

摂食訓練と職種連携. 日本聴能言語福祉学院聴能言語学科1年生, 補聴言語学科2年生, 2007.1.20.

嚥下障害Ⅱ. 日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科1年生, 2007.1.26, 2.9.

言語聴覚療法、摂食機能療法、嚥下造影検査の施行・解析の指導業務. 河崎病院, 2007年4月1日-2008年3月31日.

言語聴覚療法、摂食機能療法、嚥下造影検査の施行・解析の指導業務. 水間病院, 2007年4月1日-2008年3月3日.

理学療法特論(嚥下障害、高次脳機能障害、言語障害). 河崎医療技術専門学校理学療法学科3年生,

2007.4.27, 5.18, 5.25, 6.19.

大学説明「人間回復としてのリハビリテーション」. 奈良県立青翔高等学校3年生, 2007.4.28.

嚥下障害（言語）. 国立身体障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科2年生, 2007.5.11, 5.12, 5.19.

一日総合大学 模擬授業「食べる・飲込むを科学する—むせる時・つまる時、どうなる？どうする？」. 大阪府立生野高校2年生, 2007.7.18.

嚥下障害学（含実習）. 北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻3年生, 2007年9月1日-2008年3月31日.

臨床栄養学実習「摂食嚥下リハビリテーション」. 武庫川女子大学生活環境学部3年生, 武庫川女子短期大学2年生, 2007年10月1日-2008年3月31日.

スーパーサイエンスハイスクール関連カリキュラム「食べる・飲込むを科学する—嚥下障害のメカニズム—」. 奈良女子大学附属中等教育学校5年生, 2007.12.17.

【公開講座主催】

言語聴覚の日. 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.8.25.

言語聴覚の日行事実行委員. 日本言語聴覚士協会, 東京都 日本青年館ホテル国際ホール, 2007.9.2.

【公開講座講師】

介護保険介護予防事業 平成19年度お達者サポーター養成講座（転倒骨折予防教室）「認知症と嚥下障害の予防—どうなる・どう防ぐ—」. 貝塚市（委託）在宅介護支援センター ふれあい二色の浜, 2007.10.15.

介護保険介護予防事業. 貝塚市（委託）山手地域包括支援センター, 2007.12.4.

【座長】

第8回 日本言語聴覚学会 摂食・嚥下障害Ⅳ 研究. 大会長：長谷川賢一（聖隷クリストファー大学）, 浜松市, 2007.6.2.

第31回日本高次脳機能障害学会モーニングセミナー2 高次脳機能障害入門—視覚失認—. サノフィ・アベンティス株式会社主催, 和歌山市, 2007.11.23.

【学会運営】

第4回泉州嚥下研究会 講演：高齢者の咀嚼と嚥下—安全な監視・介助のために—. 大阪大学大学院歯学研究科 小野高裕, 症例報告：長期訓練後部分的経口摂取に至った症例 河崎病院言語聴覚士 梶村桃子, 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.10.12.

日本音声言語医学会 音声言語医学会サテライトセミナー, カトリン・ノイマン医師（ゲーテ大学音声小児聴覚クリニック・ユトレヒト大学）, 「吃音における脳の関連要因と可塑性—基礎と治療効果—」. 2007.10.28.

第31回日本高次脳機能障害学会. 学会長：板倉 徹（和歌山県立医科大学）和歌山市, 2007.11.21-23.

関東嚥下訓練技術者講習会 世話人, 1997年～現在に至る.

日本音声言語医学会 評議員, 平成17～19年度.

日本言語聴覚士協会 常任理事, 平成19～20年度.

日本言語聴覚士協会 職能部長, 平成19～20年度.

日本言語聴覚士協会 広報部員, 平成19～20年度.

日本言語聴覚士協会 学術編集委員, 平成19～21年度.

日本嚥下障害臨床研究会 世話人, 1994年～現在に至る.

【症例検討会主催】

泉州言語聴覚士症例検討会. 大阪河崎リハビリテーション大学, 2007.4.18, 5.23, 7.4, 8.1, 10.10, 11.14, 12.19.

【特別嘱託】

厚生労働省老人保健事業推進等補助金による「施設及び居宅高齢者に対する栄養・食事サービスのマネジメントに関する研究会」, 東京都, 2007.2.1.

嚙下りリハビリテーションの指導業務, 近畿大学医学部附属病院, 2007年4月1日-2008年3月31日.

吉村 貴子

■ 論文

【原著】

Yoshimura T, Maeshima S, Osawa A, Sekiguchi E : Clinical Examination on the Usefulness of Clock Drawing Test (CDT). The Forth World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine 2007, 1(1) : 109-112.

【その他】

Yoshimura T, Osaka M, Maeshima S, Sekiguchi E, Osawa A : Working Memory and Intelligence in Dementia. International Psychogeriatrics 2007, 19(1) : 100-101.

■ 国際学会

【ポスター】

Maeshima S, Makita S, Uchida R, Sekiguchi E, Osawa A, Ota N, Yoshimura T : A cerebral blood flow study on verbal fluency in patients with Alzheimer's Disease. International Psychogeriatric Association 2007 Osaka Silver Congress, Osaka, Japan, October 14-18, 2007.

Osawa A, Maeshima S, Ota N, Yoshimura T : Regional cerebral blood flow in the patients with dementia - Is the analysis tool of rCBF useful or not to diagnose dementia?. International Psychogeriatric Association 2007 Osaka Silver Congress, Osaka, Japan, October 14-18, 2007.

Yoshimura T, Maeshima S, Osawa A, Sekiguchi E : Clinical Examination on the Usefulness of Clock Drawing Test (CDT). 4th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine, Seoul, Korea, June 10-17, 2007.

【一般口演】

Yoshimura T, Osaka M, Maeshima S, Sekiguchi E, Osawa A : Working Memory and Intelligence in Dementia. International Psychogeriatric Association 2007 Osaka Silver Congress, Osaka, Japan, October 14-18, 2007.

■ 国内学会

【シンポジウム】

吉村貴子：視覚失認. 第31回日本高次脳機能障害学会, 和歌山, 2007.11.22-23.

【一般口演】

吉村貴子, 矢守麻奈, 板倉登志子, 前島伸一郎, 関口恵利, 板倉徹：パーキンソン病における言語流暢性について～前頭側頭型認知症との比較. 第31回日本高次脳機能障害学会, 和歌山, 2007.11.22-23.

■ 勉強会

吉村貴子, 板倉登志子：パーキンソン病の語想起障害について. 和歌山県言語聴覚士会症例検討会, 和歌山, 2007.4.7.

■ 社会活動

【学会運営】

日本高次脳機能障害学会 評議委員.

日本言語聴覚士養成校教員連絡会議 会報委員.

和歌山県言語聴覚士会運営委員, 学術局長.